

科目名		プログラミング論ⅡA(ProgrammingⅡA)							
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第3学年	経営情報学科	履修	1単位	—	講義	前期 90分/週	30時間		
担当教員		【常勤】内田 保雄, 二木 映子							
<b>学習到達目標</b>									
科目の到達目標レベル	<p>プログラミング論Ⅰで習得したプログラミング能力を基礎として、Java言語の基本的な文法や操作方法について学習を進め、プログラマが修得すべき基本的なプログラミング能力を確実なものとしていく。そのためまず、今日のプログラマの必須知識であるオブジェクト指向の概念を理解するとともに実際のプログラミング技法について学ぶことが目的である。</p> <p>Javaの基本的な文法を理解し、Javaの開発環境が利用でき、基本的なJavaプログラムを作成できるようになるのが到達レベルである。</p>								
学習・教育目標	(B)	JABEE基準1(2)							
<b>関連科目, 教科書および補助教材</b>									
関連科目	プログラミング論Ⅰ、プログラミング演習Ⅰ								
教科書	「明快入門Java」林晴比古著 (ソフトバンク)								
補助教材等	Webで補足資料を提示する。								
<b>達成度評価 (%)</b>									
評価方法 指標と評価割合	中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
	50	50							100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】	◎	◎							/
思考・推論・創造への適用力 【適用、分析レベル】	○	○							
汎用的技能 【論理的思考力】		○							
態度・志向性(人間力) 【 】									
総合的な学習経験と創造的思考力 【 】									
<b>学習上の留意点および学習上の助言</b>									
<p>情報システム全般の知識が必要である。            重要な事項について練習問題を課す。練習問題を解くことで、自身の理解度を把握する。            プログラムを丸暗記するのではなく、処理の仕組みを理解することが重要である。            Java言語のリファレンスマニュアルを読み解くことが理解の手助けとなる。</p>									

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス 授業の目的と意義	・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。 ・Java言語を学ぶ目的と意義について理解できる。	第1回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
2	オブジェクト指向の概念	・オブジェクト指向の概念を理解し、説明できる。	第2回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
3	C言語とJava言語の比較	・C言語とJava言語の比較を行ない、説明できる。	第3回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
4	Java言語の開発手順	・Java言語の開発手順を理解し、実行できる。	第4回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
5	言語要素	・言語要素について理解し、説明できる。	第5回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
6	変数と定数	・変数と定数について理解し、プログラムとして記述できる。	第6回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
7	演算子	・演算子について理解し、プログラムとして記述できる。	第1回～第7回で取り上げた内容の復習を行ない、試験に備える。
8	<b>中間試験</b>		
9	試験返却・解答解説 制御文(分岐)	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 ・制御文(分岐)について理解し、プログラムを作成できる。	第9回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
10	制御文(反復)	・制御文(反復)について理解し、プログラムを作成できる。	第10回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
11	配列	・配列について理解し、プログラムを作成できる。	第11回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
12	基本的なアルゴリズム	・並べ替えなどの基本的なアルゴリズムを用いたプログラムを作成できる。	第12回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
13	ビット処理	・ビット処理について理解し、プログラムを作成できる。	第13回で取り上げた内容の復習を行ない、次の演習に備える。
14	メソッド	・メソッドについて理解し、プログラムを作成できる。	第1回～第14回で取り上げた内容の復習を行ない、試験に備える。
	<b>期末試験</b>		
15	答案返却・解答解説 全体の学習事項のまとめ 授業改善アンケートの実施	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。	
総授業時間数			30時間